

久保忠一後援会ニュース

活動報告 5月 2013年5月8日発行

発行者 鴨川市議会議員

久保忠一 (くぼただかず)

住所 東条地区広場1709番地 1960年3月9日 生所属団体・役職
エビハラ病院(薬剤師・ケアマネ)、NPO法人床ずれ研究会(代表)、日本褥瘡
学会(千葉県支部実行委員)、認定NPO法人生活情報推進ネットワーク(副
代表)など

連絡先

090-7402-3941

FAX: 04-7093-6030

E-mail: qqbm5s5w9

@able.ocn.ne.jp

携帯メール

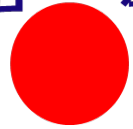
topple.nozomi@docomo.ne.jp

住所: 東条地区

広場1709番地



がんばろう
日本



ごあいさつ

この連休の鴨川は、弁天島巖島神社の六十年に一度の御開帳と、併せて行われた、鴨川みなとまつりもあり、久々に活気を取り戻した様子でした。

弁財天尊像とその御霊代を収めた女御輿、船橋など、一生に何度も拝めない貴重なもので、予想以上の多くの方に(延べ十万人)、観光だけでなく、信仰心に通じる畏敬の念を持って参拝や祭礼に参加して頂きました。海に生きるまちとして、全国に誇れる大祭であったと感じております。

奉賛会や関係者の皆様のご尽力と心意気に何よりも心より感謝申し上げます。今後も伝統と観光資源を生かして、人々をひきつけて行き続けると思います。

弁天島を含む鴨川漁港の沖合に浮かぶ大小「つの島と岩礁は、本場の松島に劣らない絶景であり、漁港と弁天島を結ぶ架け替え工事の終わった橋からの光景には改めて感動を覚えました。

今回はまた、地域経済にもたらした影響も相当大きかったと考えます。

今後もポピュラーな観光地として、海産物や長狭米などの農産物の宣伝はもとより、おらが井などのアイデア商品にさらに磨きをかけて、個別にも全体的にも洗練された観光地になっけると思っております。

今我々鴨川市民は、鴨川には誇るべきものがある、魅力があると信じなければならぬと思います。

決してうぬぼれではなく、誰でも日本という国を誇りたいのと同じことだと思えます。

それゆえに、今後の市の発展のために、既存の医療などの産業とも横断的に結び付けることができる核になる人間の一人となるよう、私自身も誠心誠意努力いたします。もちろん、一人ひとりの能力は限られています。鴨川の輝き、地方の輝き、日本の輝きを取り戻す原点は、海に生きる鴨川の原点である体を張って生きる心意気と地域の絆であると感じております。

市政がしっかりと皆様と地域の発展をサポートできるように尽力いたします。

